

道徳科学習指導案

令和2年10月 第1学年 指導者 服部 こずえ

1 主題名 ただしいことはすすんで 内容項目 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と責任

2 教材名 「ぼくはいかない」(出典：光文書院「ゆたかなこころ 1ねん」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。また、よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じることに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。自分で行ってよいこと、行ってはならないことを見極め、よいことを進んで行おうとする態度を養うことが大切である。

(2) 児童の実態について

第1学年の児童は、周囲の大人の言動により、何がよいことで何が悪いことか、素直な感性で受け入れており、善悪の区別が認識されてきている。また、仲間との関わりを築き、学級集団の一員としての意識が強くなってきている。周りの様子を見ながら行動したり、一人だけ目立つことを避けようとしたりし、よいことだと思っても、周りを気にして一人で行動を起こすことを躊躇する姿も見られる。そこで、他者からの指示を待つのではなく、よいと判断したことを積極的に行おうとする態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、主人公が友達に危険な場所に子供だけで行こうと誘われるが、何がよいことで何が悪いことか考え、友達に「よわむし」と言われながらも、「いけないことはやらない」と相手に伝えることができる話である。主人公の心の葛藤や思いを感じ取ることを通して、児童が正しいことをすることのよさに気付き、よいことを進んで行おうとする態度を養うことができる教材である。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入では、児童が普通の学校生活できまりを守れていない「廊下を走ってしまうこと」を挙げ、いけないことだと分かっている、してしまうのはなぜだろうと疑問をもたせることにより、自分たちに身近な話題として捉えられるようにする。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・教材を通して、道徳的価値についての考えをもつ場面では、登場人物それぞれの気持ちや考えを明確にして板書したり、表情イラストを活用したりして主人公の心を視覚的に捉えさせ、葛藤していることに気付かせる。
- ・道徳的価値についての考えを交流する場面では、ペア、全体での意見交流をするために表情プレートを活用する。自信をもって自分の意見を表現したり、友達の意見を聞いたりすることにより、児童が正しい判断をし、正しい行いをするためには何が必要かを考えさせる。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・終末の場面では、これからの学校生活での具体的な場面を想起させ、「正しいこと、よいこと」の具体例を示すことにより、よいことを行おうとする意欲を高める。

5 本時の展開

(1) ねらい

しんちゃんの心の葛藤や迷いについて、表情プレートを活用して話し合うことを通して、正しいことをしたときのすがすがしい気持ちに気付き、進んで正しいことを行おうとする態度を養う。

(2) 準備

教師：場面絵の提示用パソコン、場面絵の提示用モニター、場面絵、ワークシート、表情プレート

<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。</p> <p>○どうしたら、よいと思うことを進んでできるようになるのでしょうか。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後のことを考える。 ・すっきりした気持ちを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことをしたときのすがすがしい気持ちを、表情イラストによって視覚的に捉えさせる。
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○割り込みをしてきた人には何と言えばよいでしょう。</p>	<p>4分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・割り込みをしてはいけないよ。 ・きちんと並ぼう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を提示し、何と云えばよいか考えさせて全体で言葉に出させることにより、「自分も言えそうだ、やってみよう」という気持ちをもたせる。

(4) 評価の視点

- 登場人物の気持ちや心の葛藤を考える場面で、善悪の判断、自律、自由と責任の意義について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- 本時の振り返りの場面で、正しいと思ったことを行うことについて、自分自身との関わりの中で深めているか。

(5) 板書計画

めあて どうしたら、よいとおもうことをすすんでできるようになるのでしょうか。

ぼくは いかない
「みどりがわに さかなをつかまえにいこうよ」

あきおくん
ふみひこくん

しんちゃん

しんちゃん
・いこうよ、かわであそびたい
・あぶないけど、だいじょうぶだよ。
・たのしそうだなあ。
・いきたいけど、あぶないんじゃないかな。
・まようなあ、ともだちといきたいけど

いきたいけど、いけなくてさんねん。
いけないことだから、だめだとおもう。
おかあさんにおこられるかもしれない、どうしよう。
いつてはだめだけど、なかまはずれにされちゃうかな。

しんちゃん
「あぶないから だめだよ。
ぼくはいかない。」

「ぼくはともだちだよ。それによわむしではないさ。」

よわむしといわれて、おこっている。
わるぐちをいわれて、かなしい。
だめなものだめ、といえてすっきりした。
いけないよといえて、よかった。

○どうしたら、よいとおもうことをすすんでできるようになるのでしょうか。
あとのことをかんがえること。
すっきりしたきもちを、たいせつにすること。
○わりこみをしてきたひとがいたら。